ほっかいどうの社会保障

２００８年８月２５日	北海道社会保障推進協議会

「介護職員を増やして！」　8月24日
学習講演会に介護事業所から170人が参加

２４日（日）、北海道社保協も参加する「介護職員を増やして！北海道連絡会」が主催する学習講演会が１７０人の参加で開催されました。

開会挨拶の後、いつくしみの会、勤医協在宅、道北、苫小牧からの歌や仮装などのパフォーマンスもまじえた事業所報告がありました。
利用者家族として江端愛子さんから、夫の介護をする中で、介護職員との体験や介護現場の実態について報告。江端さんは、『介護保険の改悪で、介護する人と介護される人の信頼関係が壊れている。ずっと信頼し合ってきたのにやり場のない怒りを感じる。今の現場はあまりにも人手が足りない。国はお金をかけずに減らすことばかり言う。家族が安心して介護できるように、皆さんと団結して声を上げていく時だ』と介護ウェーブの運動にエールを送りました。

続いて、札幌社保協の太田眞智子さん（勤医協在宅）が、昨年１２月から１月にかけて行った「０６年度介護保険改定　ケアマネージャー現場実態調査」の報告を行いました。
（アンケート結果は、「笑顔で暮らしたい」第４１号 2008.8 に掲載）

鹿児島大学伊藤周平教授が『09年介護報酬改定の動向と介護保険の課題』と題して学習講演

《 介護保険制度の抜本的見直しもなく、介護労働者の労働条件と人材不足は放置されたまま 》
《 施設関係者や介護労働者の運動の広がりで、次期選挙で介護保険の抜本的見直しを争点にしていくべき 》

伊藤教授は、『社会保障改革の先駆けとなったのが、介護保険制度だが、同制度は大きな混迷の中にある』、『後期高齢者医療制度や障害者自立支援法のモデルとなった介護保険制度は、何ら抜本的な見直しはされず、介護労働者の劣悪な労働条件や人材不足は放置されたまま』と指摘し、介護保険の現状、改正された介護保険法の諸問題、今後のゆくえと課題について詳しく説明。
その上で、『介護保険制度は、サービス利用が増えたり、介護報酬を引き上げると保険料と利用者負担につながる』、『介護労働者の労働条件の改善や安全性確保のためには、介護報酬の引き上げが必要で保険料の引き上げにつながる。介護報酬は一度も引き上げられず、逆に下げられている。今後、大幅な引き上げは期待できず、劣悪な労働条件と人材不足は打つ手なく放置されている。逆進性の強い保険料負担の仕組みを変え、ある程度の介護保険料の増大に対応できるものに改変しなければならない』と述べ、今後の課題として、『真の意味での「介護の社会化」を求め、社会保障の充実を求める声は、多くの人々の共感と協力を得られる可能性が高い。特に介護現場の労働者が声をあげはじめた意義は大きい。介護保険の問題を、後期高齢者医療制度の問題と同様に、政治問題へと争点化していく施設関係者や介護労働者の運動の広がりが必要。次期選挙の争点に』と結びました。